聖ニコラウスの伝説
サンタクロース

270年頃、ギリシャで生まれて、ローマ帝国の小さな町ミラの司教として活躍したニコラオス。
キリスト教の大迫害にも屈せず、信仰を捨てずに教えを守り続けました。
そして1200年頃に守護聖人「聖ニコラウス」となりました。

★★★★★

聖ニコラウスは、ある父親の嘆きを聞きます。働けども貧しくて、３人の娘を嫁がせることができません。
聖ニコラウスは、その夜、３つの金塊を家の中に投げ込みました。
すると、金塊はなんと靴下の中に入ったのです！
これが、サンタさんがクリスマスプレゼントを靴下の中に入れる習わしの始まりといわれています。

他にも、殺害された３人の少年を生き返らせたという伝説もあり、こどもたちの守護聖人とされ、魔法をあやつり、贈り物をもたらす存在として、人々に知られるようになりました。

聖ニコラウスの命日は12月６日。
オランダ、ベルギー、
ドイツの一部の地方では、
前日５日にプレゼントを渡します。
オランダ語では「シンタクラース」と呼ばれ、国の発展の礎となった海運業の守護聖人としても深く信仰されました。

11月中頃、シンタクラースはスペインから船で上陸、馬にのって町をパレードし、見に来た人々にお菓子を投げてくれます！
そして12月５日までの間、夜には白馬にのって空を飛んで、孤児院や病院にいるこどもたちにプレゼントを届けてくれるそうです。

★★★★★

★★★★★

オランダから新大陸の植民地に「シンタクラース」がもたらされ、それぞれの地でサンタクロースのイメージがつくられていきました。
アメリカでは、19世紀に入って、クリスマスを家族で祝う行事にしようと、作家や詩人たちが著書でサンタクロースを描くようになります。
1809年『「ニッカーボッカーのニューヨーク史』（ワシントン・アーヴィング著）で、馬車で空を飛び、良い子にプレゼントを配るさまが書かれました。1821年には作者不詳の挿絵入りの詩「子どもたちのお友だち」で、コートを着てプレゼントを配る姿や馬車を引く１頭のトナカイが描かれました。翌1822年『クリスマスの前の晩』（クレメント・クラーク・ムーア著）で、サンタのかっぷくのいい体型や８頭のトナカイがそりを引くというイメージが定着し、19世紀の後半には、白いファーがついている赤い帽子やコート、白いおひげといった、現在につながるサンタクロース像ができあがりました。

Joyeux Noël !

Chocolatier La Pierre Blanche